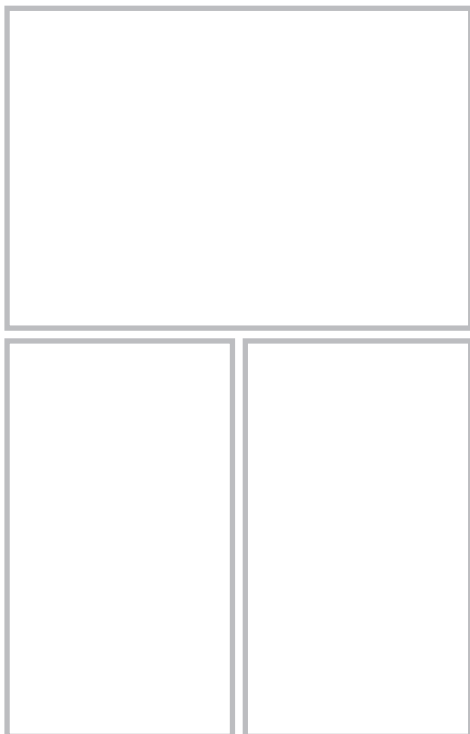




図 21.44 房状血管腫 (tufted angioma)

図 21.45① グロムス腫瘍 (glomus tumor)
爪下に形成。爪の変形を認める。激しい圧痛を伴う。

病因

急速に増大する小児の巨大血管腫〔Kaposi 肉腫様血管内皮腫 (Kaposiform hemangioepithelioma) や房状血管腫が多いとされる〕において、腫瘍内出血をきたし血小板が消費されることによる。皮膚血管腫は乳児血管腫に類似するが、分化度が低いためにうっ血や血小板消耗、血液凝固因子消耗をきたすと考えられる。

治療

DIC に対する対症療法が必要。ステロイドや抗悪性腫瘍薬投与、血管塞栓術などが行われる。

6. 房状血管腫 tufted angioma

同義語：血管芽細胞腫（中川）(angioblastoma of Nakagawa)

乳幼児に好発。紅斑として生じ、徐々に拡大する扁平隆起性の浸潤局面（図 21.44）。淡紅色から暗紫紅色を呈する、未熟な内皮細胞と周皮細胞が増殖する血管性の腫瘍である。圧痛や疼痛を伴うことが多い。

7. 血管内乳頭状内皮細胞増殖症 intravascular papillary endothelial hyperplasia

拡張した細静脈内に生じた血栓の再疎通過程で生じた血管増生。反応性変化で成人に多い。静脈内に形成される青みがあった暗紅色の結節で、指掌側に好発する。血栓形成による疼痛を伴うこともある。

8. グロムス腫瘍 glomus tumor ★

類義語：glomovenous malformation, グロムス血管腫 (glomangioma)

Essence

- 指の爪甲下に好発する。小動静脈吻合部 (neuromyoarterial glomus) に存在するグロムス細胞由来の良性腫瘍。
- 暗紅色～青褐色の硬い腫瘤を形成、強い疼痛を伴う。
- 夜間や寒冷曝露時に発作性に疼痛が増強する。

症状

単発型と多発型に大別されるが、ほとんどが単発型である。